

徳大病院脳外科 言語聴覚士・北出さん

る。新しい話題や情報が毎日掲載される新聞は患者の興味を引くため、効果的なリハビリができるという。「訓練に取り組み意欲が高まる」と患者にも好評だ。

失語症や記憶障害などの患者にリハビリ指導をしている徳島大学病院脳外科の言語聴覚士北出修子さん(53)は、香川県さぬき市に、新聞記事を活用した独自の訓練を行っている。

リハビリに新聞活用

音読・書き写し効果的



新聞を使ったリハビリ指導に取り組む北出さん
徳島大学病院

「訓練意欲高まる」 記憶障害や失語症患者

北出さんは12年前から週に1回、徳大病院で外来患者のリハビリ指導を行っている。患者は小学生から70代まで1日8人ほどで、全員の訓練に新聞を取り入れている。患者は、記事の音読や書き写しをするほか、北出さんの音読を聞いたり記事に関する質問に答えたりする。興味のある記事を選ぶことで訓練に集中しやすくなるだけでなく、記事の内容から過去の自分の経験を連想して積極的に話すようになるなど、記憶を呼び起こす効果があるという。

北出さんは徳大医学部卒。リハビリ指導の教材に新聞を活用するようになったのは、香川県内の病院に勤めていた20年

前。それまでは、絵と文字が書かれた単語カードなど既存の教材や、300字ほどの文章を集めた冊子を使っていた。

患者の幅広い興味にもっと対応できる教材はないか模索し、新聞が最適だと気付いた。感動的な内容もあって患者が感情移入しやすい読者投稿欄の記事から取り入れ、その後幅広い記事を活用するようになった。

失語症などの症状があり、2年前から北出さんの指導を受けている徳島市内の男性(38)は、以前と比べて意欲的にリハビリに取り組みめるようになったという。社会への関心が高まり、毎日のように新聞を読むようになったそうだ。

リハビリを終えた患者の中には、習慣的に新聞の音読を続けている人も多。北出さんは「地道な努力を重ねることリハビリの効果が出る。専門家の指導を受けられない人も、家庭で簡単にできる訓練として新聞の音読や書き写しをぜひ実践して」と話す。